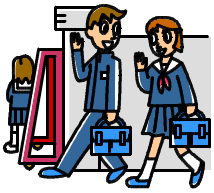
くまもと「親の学び」プログラム次世代編



自立を育む
コミュニケーションプログラム

熊本県教育委員会

くまもと「親の学び」プログラム次世代編

自立を育むコミュニケーションプログラム一覧

プログラム番号	プログラム名	時間（分）	キーワード	掲載ページ	ステップ（中高生期）編 プログラムとの関連	
					番号	プログラム名
1	すごろくトーク ～広げよう友達の輪～	20	コミュニケーション	P5	9	子育てすごろく ～中高Ｖｅｒｓｉｏｎ～
2	フレンドリービンゴ ～親しくなろう、仲間を増やそう～	20	つながり コミュニケーション	P8	10	つながりビンゴ ～聴いて、話して、親しくなろう～
3	イライラ解消法 ～見つけたよ、ｍｙリラクゼーション～	20	自己認知	P12	1	リラックスタイム ～力をぬいて～
4	コペルニクス的発想法 ～気になるところはいいところ～	25	多様な考え方	P15	12	プラスの表現 ～認め・ほめ・励まし・伸ばそう～
5	メッセージ　ｆｏｒ　ｍｅ ～自立に向けて～	25	自立	P17	14	ファミリーアクション Ｙｅｓ　ｏｒ　Ｎｏ ～あいさつ、手伝いどうしてる～
6	ベストリスナー ～聞き上手で広がる我・輪・和～	展開Ａ 25	コミュニケーション 聞き方	P20	16	やってみよう、聞き方エトセトラ ～今日からあなたも聞き上手～
		展開Ｂ 40		P24		
7	うれし、恥ずかし、顔文字づくり ～自分の気持ちに向き合って～	30	喜怒哀楽	P26	20	感情ランキング ～子どもの気持ちになってみよう～
8	理想の親子 ～子どもの立場と親の立場～	30	親の役割	P29	21	親の役割３か条 ～親の目・子の目～
9	２０年予想Ｓ ～どんなことが待っているかな～	30	人生の見通し・自立	P32	17	未来予想Ｓ ～１０年後の子どもとわたし～
10	高校生のハローワーク ～自分の進路を見つめてみよう～	30	進路選択と自立	P35	18	子どもの夢サポート ～進路選択と親の関わり～
11	悩み熟議 ～親の立場で考えてみよう～	50	親子関係	P39	22	聞いて、聞いて、わたしの悩み ～子どもの異性とのつきあい方～

くまもとサプライズ
キャラクターくまモン

はじめに

子どもの健やかな成長は、すべての親の願いであり、また、社会全体の願いでもあります。

近年、核家族化や少子化による世代間の継承（縦のつながり）と地域のつながり（横のつながり）の希薄化などにより、家庭教育に関する「親としての学び」の機会や子育ての知恵を学ぶ機会が減少しているといわれています。また、子どもとメディア（携帯電話やインターネット）との関わりから生じる問題や親子・大人同士のコミュニケーション力の低下など、新たな課題も生じてきています。

このため、県教育委員会では、身近なところで気軽に「親としての学び」の機会が提供される基盤づくりの整備とくまもと「親の学び」プログラムの作成を行いました。

くまもと「親の学び」プログラムは、参加体験型の学習スタイルで、子どもの発達段階に合わせたテーマをもとに考えを出し合ったり、聞いたりすることを通じて、保護者が子育てについて前向きな気持ちを持ったり、子育てのヒントを得たりすることができるプログラムです。このプログラムは、対象となる保護者ごとに、スタート（乳幼児期）編とスマイル（小学生期）編、ステップ編（中高生期）編の３つを作成しました。

さらに、保護者向け「親の学び」プログラムと同時に、「まもなく大人になる」高校生や中学生（以下、生徒たち）に、【大人になる】【親になったときに】という視点から、そのときに必要な【自立】と【コミュニケーション】を盛り込んだ「自立を育むコミュニケーションプログラム」（本編）を作成しました。本編には、「まもなく大人になる」生徒たちに、考えてほしいテーマや欠かせないテーマを盛り込みました。

ホームルームや集団宿泊研修、教科の時間等、学校やクラスの実態に応じて、積極的に本プログラムを御活用いただきますようお願いいたします。

平成２４年３月

熊本県教育委員会

1　くまもと「親の学び」プログラム次世代編
自立を育むコミュニケーションプログラムとは？

この「自立を育むコミュニケーションプログラム」は、生徒たちを対象とした参加体験型コミュニケーション講座を進行するためのプログラムです。

本プログラムは保護者向けくまもと「親の学び」プログラムの続編で、「まもなく大人になる」生徒たちに、「大人になったときに」「親になったときに」という視点をベースに、そのときに必要な【自立】と【コミュニケーション】をメインテーマにプログラムを構成しました。

本講座では、教職員（管理職の先生を始め、学級担任や養護教諭、部活動指導者などすべての先生方）やＰＴＡ役員さんなど、生徒にかかわっている方々が進行役（ファシリテーター）となることができます。

進行役は、一方通行の講義をするのではなく、伝えたいねらいやメッセージを明確にしつつ、生徒の気付きをサポートし、生徒と一緒に講座をつくりあげていく役割があります。

本解説書では、プログラムの基本となる展開例等を示していますので、講座のねらいや参加者の人数、時間等に応じて、アレンジして活用してください。

このプログラム講座を通して、生徒同士が互いにつながり、自立に向けて考えていこうとする一つの手がかりとなれば幸いです。

ロングホームルームや集団宿泊研修、オリエンテーション等、それぞれの機会に、このプログラムを活用していただきたいと思います。

必要に応じて適宜増補したり実践を紹介したりし、より充実した解説書にしていきます。

「キャンペーンロゴマーク」
「家庭」「地域」と「子ども」を組み合わせ、若葉のように健やかに伸びる子どもの明るい瞳と子どもを囲む家庭、地域のまなざしを表現しています。
安富　勝弘さん（熊本市）の作品

２　参加体験型学習（ワークショップ）とは？

「親の学び」講座は、参加体験型学習（ワークショップ）という形で行います。

参加体験型学習では、講演会や講義のように、講師の話を参加者が一方向から聞いて学ぶのではなく、参加者同士で作業をしたり話し合ったりすることを通して、今まで気付かなかったことに気付いたり、大切なことを再認識したりすることができます。

参加体験型学習を組み立てるときには、次の３つのポイントを確認することが大切です。

☆参加体験型学習における３つのポイント

ポイント１　「一人一人が主役」という主体的・参加的な学習

参加者一人一人が「受け身」になるのではなく、それぞれが考え、言葉や文字で表現することによって、これまで自分が気付かなかったことに気付いたり、これまでの認識について、改めて大切であることを再確認したりすることができます。

そのためには、一人一人が参加しやすい雰囲気や発言しやすい雰囲気づくりが必要になります。参加体験型学習を苦手としている参加者には、「無理せず、発言できるときに発言する。」「他の方の考え等を聞いて、感じたことがあったら教えてください。」というようなスタンスで気軽に参加してもうように配慮することが大切です。

ポイント２　「互いに学び合う」という協力的な学習

グループ内で意見を出し合ったり、全体で考えたことやグループで話題になったことを紹介し合ったりすることを通して、これまでに気づかなかった多様な視点や考え方があることに気づいたり、共感したりすることができます。

そのためには、進行役は、参加者相互の意見を否定せずに聞く雰囲気をつくったり、多様な考えを引き出すような声かけを行ったりすることが大切になります。「参加者一人一人の意見によって、他の参加者の学びにつながっていく」という意識を、参加者の皆さんにもってもらうことが大事です。そうすることによって、自分と違う価値観をもつ人の意見も受け入れやすくなるからです。

ポイント３　具体的な活動を通して考える体験的な学習

具体的な活動（すごろくやサイコロを使っての活動や付箋紙に書き出し分類する活動等）や体験（ロールプレイやシミュレーション、ディスカッション等）をすることを通して、問題に気づいたりその解決方法を探求したりしようとすることができます。活動（体験）すること自体が目的ではなく、その活動（体験）から感じたことを話し合い、生活と結びつけて考える過程が大切です。

そうすることによって、今まで気付かなかったことに気付いたり大切なことを再認識したりするなど、実践へと向けた気持ちをもつことができます。

3　進行役（ファシリテーター）の役割

参加体験型学習では、学習を進める「進行役」（ファシリテーターとも言う場合がある）の役目が大切です。進行役は、参加者同士の話し合いや作業がスムーズに行われるよう、参加者の様子を見ながら説明や声かけをし、参加者自身が、「気付き」を得て何かを学ぶことを助けることがその役目です。

講座の進行を通して、進行役自身も「学ぼう」という気持ちをもつことが大事です。

進行役に不安をもっている場合は、「二人で進行役をする」「短時間の講座や少人数の講座等から進行役を経験する」と、不安が軽くなります。

☆進行役に求められること

（１）雰囲気づくり

・進行役は、笑顔が大切です。
　自信をもって、はっきりした声で、ゆっくりと話しましょう。
・話し合いの前に「正解や間違いはない」ことを参加者に伝えると、参加者は気が楽になり発言しやすく感じます。
・発言は、話せる範囲で話すとよいことを伝えましょう。参加者は安心して参加できます。
・参加者一人一人の人権が尊重され、安心して講座に参加できる場としましょう。

（２）主体性の尊重

・参加者の意見を受けとめ、よく聞き、明るく丁寧な言葉で対応する等、参加者一人一人を大事にしましょう。また、進行役は人権尊重の視点を常にもって進行することが大切です。気になる発言等があった場合には、「なぜそう思うのか」「自分は〇〇と思う」と、問いかけることも必要です。
・参加者の意見を無理に一つにまとめる必要はありません。一人一人が気付きを得たり「なるほど」と再確認できたりすることを大切にするように促しましょう。
・進行役自身の考えを押しつけたり参加者の発言を批判したりしないことが大事です。

（３）流れの調整

①参加者に合わせた進行

・参加者が活動や作業の手順などを理解しているかどうか、確かめながら進めましょう。
・参加者の様子を見て、予定より時間が必要と判断した場合には、時間を延ばしましょう。用意した内容の全てを行う必要はありません。
　（時間よりも早く進んでいる場合どうするか、時間が足りなくなりそうな場合どうするかを事前に考えておくと、その状況になったときに慌てなくてすみます。）

②テーマに沿った進行

・話題がテーマからそれた場合は、発言者の意見にも同調しながら、テーマに沿った話題に戻すように心がけましょう。

《 参加体験型学習の基本的な流れ 》

1アイスブレイク

緊張が
とれたみたい。

※簡単なゲームで
心と体をほぐします。

2 ねらいの確認

ねらいが
わかったぞ。

※キーワードを提示し、
ねらいを確認します。

3 グループ活動

それは、いい
アイデアですね。

※グループ活動のあと、全体で意見を共有しましょう。
（個人→グループ→全体）

4 まとめ

わが家でも
やってみよう。

※進行役の意見を押しつけるのでなく、あたたかい雰囲気で終わるように心がけましょう。

☆参加者や進行役等、誰もが気を付けることは、すべての人に敬意を払うことです。皆が、安心して話せるように、講座中に聞いたプライベートな情報を他の場所で話すことは厳に慎むよう参加者に伝えましょう。